保健師最前線

手作りの紙芝居が大好評！！

京丹後市　　大江八千代さん

訪ねたとき、大江さんはちょうど、市大宮市民局隣のアグリセンター和室で開かれていた更生保護女性会のミニ集会で紙芝居の実演中だった。紙芝居は、定年後、連れ合いを亡くして閉じこもり、うつ状態になった男性に、近隣の人たちや保健師などがどう関わっていくかをテーマにした『こころの風邪』。セリフはテープに録音され、ドラマチックな構成になっており、楽しみながら考えさせてくれる。実演後、大江さんが解説したが、感想や意見が賑やかに飛び出し、和やかななかにも活発な集会になった。

同市では、近年、自殺対策を重要課題として取り組んでおり、保健師さんたちは、「うつ病」を予防することから始めようと話し合い、絵の得意な人を中心に、この冬、一カ月がかりで紙芝居を作り上げた。

市の施策で、各地域の老人会などの集会に出向いて話をする出前講座でこの紙芝居を使ったところ非常に好評で、口コミで人気が広まり、引っ張りだこのありさま。現物だけでは回りきれず、パワーポイント版も作っている。

「ただ話を聞くだけだとしんどいですが、こういった媒体があるとわかりやすく、身近な問題としてとらえていただけます。“うつ”というのは誰にもありうることで、他人ごとじゃないと思ってもらうようです」

大江さんは、経験２２年のベテラン。新年度は新しい事業も予定しているそうだが、紙芝居もまだまだ出番が続きそうだ。